

創立一一一周年記念

同志社田辺新キャンパス整備事業と 募金について

同志社は明治八年新島襄によって創立せられて以来、一百有余年にわたって、わが国における最高学府の一つとして學術、文化の進展に貢献するとともに、立学の理想である神を敬い、真理を愛し、品行と良心に溢れた人材の育成を念願して、研鑽と努力を積み重ねてまいりました。この間には実に二十二万余にのぼる有為の人材を世に送って社会の要請に応え、今日におきましては名実ともにわが国有数の大学として、その位置を占めるに至ったのであります。これは、決してひとり同志社の努力のみによって成し得たものではなく、広く一般社会のご理解と、本学卒業生をはじめ、父母、篤志家の皆様のご支援、ご尽力の賜であり、深く感謝いたしていると存じます。

近年、わが国社会、経済のかつてない躍進に伴

い、各高等教育機関は社会の各界、各層から従来にもまして一層知性、品性ともに優れた人物の育成を強く求められており、またそれは将来のわが国の命運にかかわる重要事であり、大学がこの社会の要請にこたえ、その真価を発揮してゆくためには、さらに教授陣の充実など教育研究体制の万全を期するとともに、それを支える教学諸施設の改善整備を不断に進めてゆかなければなりません。

同志社におきましては、このような情勢に処して十分な対応を可能とするため、かねて京都府下田辺町に約一〇〇万平方米におよぶ広大な校地を確保し、ここに新しい教育研究施設を建設して去る昭和六十一年四月から同志社大学、同志社女子大学の一部を移転整備し、教学体制の飛躍の充実を図るとともに、国際高等学校においては、昭和六十三年四月から国際中学校を併設し、その教学体制を格段に飛躍充実し、同志社二百年に向っての確固たる基礎を樹立すべく努力を重ねております。しかしながら、この計画の実施にあたりまして

は当面約三百億円をこえる巨額の事業資金が必要であり、乏しい本学財政の力量からはまことに容易なものではなく、学園内外各位のご援助を仰がざるを易ない次第であります。

同志社田辺キャンパスが開学いたしました昭和六十一年は、ちょうど同志社創立一一一周年にあたります。一大事業であります田辺キャンパスの

完全整備のために、わが同志社はいま全力を挙げてこれにあたらうとしています。各界の皆様、卒業生、父母の皆様、どうか次代に向けて更に世に尽くさんとする同志社のこの念願を深くご理解下さいまして、力強いご支援を賜わりますようお願い申し上げます。

学校法人 同志社

総 長・理 事 長 松山 義則

同志社 大学 長 原 正

同志社 女子 大学 長 石田 章

同志社 国際 高等学校 長 山本 通夫

●同志社田辺新キャンパス整備事業のあらまし

昭和六十一年四月 Ⅱ開学Ⅱ

〈大学〉 第一部全学部一、二年次生の移設

(注、工学部三年次、四年次生、大学院工学研究科および理工学研究所の移設は第2段階の計画予定)

〈女子大学〉

前期計画

・短期大学新設

・学芸学部音楽学科一〜四年次生の移設

後期計画

・学部一年次生の移設(次年度以降二年次生も移設)
・文化系新学科増設(予定)

〈同志社国際高等学校〉 ・教学体制整備

整備事業所要経費

〈大学関係〉

〈女子大学関係〉(前期計画)

〈国際高等学校関係〉

〈各学校共用施設関係〉

約二四〇億円

約五八億円

約四億円

約四〇億円

合計 約三四二億円